

【学校教育目標】

地域や社会に積極的に関わり、感謝の心を持ち、自立できる生徒の育成

【本年度の重点目標】

- ・不登校の未然防止（数値目標15人以下）

分野	自己評価（4:大変よい 3:よい 2:努力を要す 1:すぐに改善）	学校関係者評価	令和4年度に向けた改善策	
学校経営	① 学校の教育目標（重点目標）を達成するために、日常の教育活動ができてきているか ＜結果＞ 学校教育目標を具現化する教職員の意識の高揚が、生徒の集団の質の向上にあらわれている。	3	落ち着いた学校生活を継続させていながら、心の教育の充実や学力向上を目指してほしい。コロナ禍の中、感染防止に努め、子どもたちのために頑張してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に対応した取組の創造と質の向上</li> <li>・既存の取組の凡事徹底の継続と質の向上</li> <li>・教員の指導力向上のための取組（研修）</li> </ul>
	② 校務分掌の担当として、役割が果たしているか ＜結果＞ 例年通りを見直す1年だった。創意工夫することで、乗り越えることができた経験を活かしたい。	3	3年生が理想のモデルとして機能し、下級生に自分たちもリーダーとして活躍したい意欲が高まっていると聞き、来年度もぜひ取組を継続してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の見直し（キャリア教育・ふるさと学習の視点）</li> <li>・ブロック活動を連動させた取組のさらなる活性化</li> <li>・これまでの取組の教員への伝承</li> </ul>
	③ 学級担任及び副担任が協力して、意図的・計画的に学級経営ができてきているか ＜結果＞ 情報共有・組織的な対応はできたが、先を見通した十分な支援・指導に至っていない。	3	今年度も各行事や入学式・卒業式が縮小となったのは残念である。しかし、制約がある中、先生方と生徒が知恵を出し合い取り組んでいる姿を見ることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、学級経営の計画的、意図的な推進</li> <li>・担任と副担任の役割分担の明確化</li> <li>・協働体制づくりのために教員間のコミュニケーションを密に行う</li> </ul>
	④ 学年会議で学年の課題の共有を図り、課題解決に向けた実践・評価・改善ができてきているか。 ＜結果＞ 教員間のコミュニケーションが密に行われ、チームによる早期対応ができた。報告・連絡・相談を継続していく。	3	新年度も先生方の協働体制をしっかりとつづけてほしい。その際、教師自ら模範を示してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員会から学年への取組の周知徹底（当事者意識の高揚）</li> <li>・指導の共通理解の推進（生徒状況の情報交換・対話を密に行う）</li> <li>・チームでの実践と改善（報告・連絡・相談の徹底）</li> </ul>
	⑤ 研修（校内・校外）で学んだことを、学年会等で還元し、教育活動の向上に役立て実践したか。 ＜結果＞ 昨年度までの3年間の成果・取組を踏まえ、道徳教育・学力向上の取組を継続・深化していく。	3	時代の変化に対応できる教師として研鑽を積み、スキルアップを目指してほしい。また、令和5年度の稲築西義務教育学校開校に向けた準備もしっかりと進めてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容の整理と絞り込み（カスタ導入に伴うICTの活用）</li> <li>・学年会議や紙面・リフレがによる研修内容の発信</li> <li>・学力向上に関する研修の充実</li> </ul>
	総合所見	教育目標の達成に向けた取組は、学年の取組により遂行できている。教員間のコミュニケーションが機能し、生徒に関する情報共有はできているが、教員の指導力により取組の実行・徹底に差がある場面が見られる。社会の変化に対応した教育課程のマネジメントを行うためにも、短いスパンでの成果や課題を示しながら、必要な研修の充実や教員への個別支援を充実させる必要がある。		
教育活動	① 教科担任として、合理的配慮を踏まえた教材・発問・板書の工夫等、授業づくりや指導技術の向上に努めているか ＜結果＞ 校内での公開授業を実施し、教育論文への応募等、資質の向上に努めた。	3	校内研修では、お互いの授業を参観し、切磋琢磨してほしい。また、他校区の実践も参考にしながら、指導技術を磨いてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導（形態、教材の選択、特別支援教育の視点）</li> <li>・考える力を育成する指導（書く場面、交流場面）</li> <li>・活用力をつけるための単元計画とその実践</li> </ul>
	② 朝の学習活動や家庭学習の課題等、学力向上につながる創意工夫をしているか。 ＜結果＞ 自学ノートの質の向上を継続していく。朝学習では、クラス全員で頑張ろうとする姿も見られた。	3	朝学習のMVPの取組は、生徒の励みとなっているようだ。自学ノートの掲示も生徒にとって良い刺激になったようだ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の計画的推進（確認テストの活用）</li> <li>・基礎基本の徹底を図る取組の充実（宿題、個に応じた週末課題の充実）</li> <li>・自学ノート実施の改善（自分の学習に対するめあて、まとめ）と検証</li> </ul>
	③ 人権学習や道徳の時間は、考えさせる場となり、いじめ防止等つながっているか。 ＜結果＞ 道徳科等の充実により、生徒の心の成長を実感できた。	3	いじめに対して早急に対応していることがわかり、安心した。楽しい学校生活が過ごせるような教育を推進してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に即した指導計画、教育内容づくり</li> <li>・小集団活動の充実</li> <li>・学校行事とブロック活動との関連を図る</li> <li>・話し合い活動の充実</li> </ul>
	④ 学活や学校行事は生徒の自主性を引き出し、自尊感情を高める取組となっているか。 ＜結果＞ ブロック活動により、自尊感情の高まりや個人、集団の成長を見ることができた。伝統の継承をさらに目指す。	3	コロナ禍の中、学習発表会、体育会等、学校行事を工夫して実施していただいていることがありがたい。ブロック活動は今後も続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成感を持たせる工夫（異学年との交流）</li> <li>・生徒会による行事の計画と運営（生徒自ら課題を見つける）</li> <li>・行事後の取組の充実（振り返りと日々の生活につなげる）</li> </ul>
	⑤ 保護者や地域と連携した教育活動に取り組んでいるか。 ＜結果＞ コロナ禍の中、PTA活動など、可能な限り実施した。	2	PTA、地域との連携をさらに充実してほしい。学校生活の様子を見る機会や知る機会を増やしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との積極的な連携と参画意識の啓発</li> <li>・学校通信などの充実（学校での様子）</li> <li>・ゲストティーチャー等の活用</li> </ul>
	総合所見	生徒の授業（学習）に対する意識は向上し、毎日の学習を頑張っている。学力を定着させる教師の指導技術が課題である。全校共通で実施する朝学習や自学ノートを中心に、基礎基本の定着を目指す。また、ブロック活動の取組を更に推進していく。		
生徒の状況	① 生徒たちに、感謝の心を持ち、周りの人を大事にする言葉遣いが身についているか。 ＜結果＞ 人を傷つける言葉等の発言への指導を根気強く継続していく。	2	先生と生徒とのつながりをつくりながら一方で生徒同士をつないでいく取組をしっかりとつづけてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や他者で評価できる場の設定</li> <li>・適切な言葉遣いや認め合う場の工夫</li> <li>・教師、生徒の言語環境とその場での指導の徹底</li> </ul>
	② 学級集団には、お互いを認め支え合う雰囲気があるか。 ＜結果＞ お互いの良さを認め合える雰囲気が少しずつはあるができてきた。授業やHRでの話し合い活動による集団作りの充実を目指す。	3	先生方が一枚岩となり、学級が学年が良い方向へ進むよう頑張してほしい。また、コロナ禍の中、難しいとは思いますが、教え合い活動を授業の中で活用してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒と学級のつながりづくり</li> <li>・支持的な雰囲気づくりと仲間意識の向上の取組の充実</li> <li>・教師間の連携と支え合い（教員間での研修）</li> </ul>
	③ 生徒は、基本的な生活習慣（生活リズム、挨拶の習慣、整理整頓、掃除）が身についているか。 ＜結果＞ 生徒を取り巻く生活環境の多様化に、苦慮している。粘り強く保護者と連携していく。	3	SNSやゲームの問題は本当に届けたい保護者に届いていない実態がある。社会的な問題だが、さらなる啓発を根気強く続けてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSなど保護者を巻き込んだ取組</li> <li>・生徒の個別の実態把握と声かけ（アセスの活用）</li> <li>・遅刻、欠席解消の取組</li> </ul>
	④ 生徒は、積極的に学習活動に参加し、日常的に学習する習慣が身についているか。 ＜結果＞ 平日の自学ノートや週末課題の実施で家庭学習を全くしない生徒は減少している。小中連携を更に進める。	3	学習する意味や学習したことが今後どう役に立つのかといった意識を持たせる取組を工夫してほしい。課題のチェックも厳しく行い、指導していることを今後も、継続してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校での学習の仕方の指導</li> <li>・小中連携の取組（学習のルールづくり）</li> <li>・宿題、自学の統一した取組（量と質を考える）</li> </ul>
	⑤ 生徒は、毎日楽しく学校に登校しているか。 ＜結果＞ 学ぶ楽しさを実感できるような授業への転換を推進している。自尊感情を高める取組を継続していく。	3	先生方の雰囲気が生徒たちに伝わると思う。先生方のチームワークが生徒の頑張りを引き出し、充実した学校生活につながると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を意識した指導の充実（個別の支援）</li> <li>・教育相談の充実（進路指導、日々の声掛けや観察）</li> <li>・自尊感情を高める取組の充実</li> </ul>
	総合所見	生徒の集団に対する帰属意識が向上する等、生徒の状態は良くなっている。しかし、背景にある厳しい実態は変わらない。教育相談の充実と支持的な雰囲気づくりの充実・深化が必要である。また、保護者や地域と連携した長期的展望に立った取組を構築していく。		